



「シモンちゃん法被」で下妻市をアピールしました

「災害時の相互応援協定を結ぶ茨城県下妻市から参加の皆さんです」

浦安市運動公園総合体育館脇のスタート地点でアナウンスされると、会場からは下妻市民ランナー37人に向けて大きな拍手がわきました。

2月1日、同運動公園と舞浜ホテル群周辺で行われた「第24回東京ベイ浦安シティマラソン」に下妻市民が招待されました。今年で3回目。

今大会は、浦安市内の復旧・復興工事の状況から、昨年の8キロメートルの部は2キロメートル距離が伸びて、10キロメートルとなりました。風は少し強かったものの、絶好のマラソン日和に恵まれ、全国から約4,780人のランナーが参加しました。

下妻市民ランナーは全員が完走する中、笠島光男さん（高道祖）が50～59歳の部で3位、池上聡さん（江）が39歳以下の部で5位に見事入賞しました。

浦安の海風浴びて下妻市民ランナー快走

第24回東京ベイ浦安シティマラソンで市民交流



手編み作業に夢中になる参加者たち

千代川公民館で2月21、22日の両日、「第15回公民館まつり」が開催され、延べ1,000人が会場を訪れました。

展示コーナーでは、公民館や市民センター各種教室の成果として陶芸や生け花、つるし雛などの作品が数多く展示されました。

1階ホールでは、合唱やオカリナ演奏、ダンスなど、公民館教室やサークルなどで練習を重ねた各種団体が日ごろの成果を披露しました。

親子で参加するお菓子作りや自由参加の折り紙、手編みなどの体験コーナーは人気を集め、子どもから高齢者まで一緒に楽しみ、交流を深めました。

手編み体験でベストを編むことに初挑戦した60代の女性は「以前から手編みに興味があった。手先を使うのが楽しい。認知症予防にもいいから」と笑顔で話し、編み方を教わりながら周りの人たちとの会話も楽しんでいました。

公民館まつりで日ごろの成果を披露

第15回公民館まつり

今が旬の白菜。NHKが白菜の産地を訪ねて、白菜の知られざる魅力を紹介しようと1月30日、市内皆葉でスイカや白菜づくりを営む農家の染野千代子さんを首都圏取材班が訪れました。

今回取材を受けたのは「ひば（干葉）」と呼ばれる乾燥させた白菜。野菜の少ない冬に白菜をカラカラに乾燥させて保存食としたもので、半年以上保存がきく。使いたいときに熱湯で戻し、主に味噌汁や鍋料理などの具材として食べられてきました。

ひば料理を味噌汁で食べたNHKリポーターの角田京子さんは「すごいシャキシャキしています。白菜の味が濃いか、旨味が凝縮されています。白菜の甘みが出汁となって優しい味になっています」と絶賛。

収録後に染野さんからは「テレビを通して、下妻の白菜のおいしさがたくさんの人に伝わってくれるとうれしい」と話が聞けました。

今回の映像は2月10日の夕方に既に放送されましたが、白菜の料理方法などはNHK「ゆうどき」のホームページで見ることができます。



リポーターにひば料理を説明する染野さん（右）

下妻産の白菜のおいしさテレビで伝える

NHK総合「ゆうどき」で下妻の白菜料理を紹介

筑西市女方にある鬼怒小貝漁業協同組合ふ化場で2月1日、鮭の稚魚放流式が行われました。

放流式には、鬼怒川流域の結城市、筑西市、下妻市などから幼児や児童、家族連れなど約250人が集まりました。本市からは「水辺の楽校」活動の一環として青龍楽校少年団の児童40名が参加。漁協の人から鮭の生態や川の様子、自然についての説明を受けた後、稚魚が成長して元気に戻って来ることを願いながら、約25万匹を放流しました。

下妻小3年の新村綾菜さんは「鮭が道を間違えないで、同じ場所に戻って来るなんてすごい」と驚いた様子で、一緒に参加した母親は「稚魚の放流は初めて。こういう体験を通して、子どもたちの食に対する意識などが変わってくれたらうれしい」と話してくれました。



やさしく稚魚を放流する子どもたち

大きくなって戻って来てね 鮭の稚魚放流式



親子で協力しながら作業しました

千代川公民館の調理室で2月1日、「カルシウムで元気いっぱい骨太家族！」をテーマに料理教室が開かれ、市内の親子13組31人が参加しました。

親子のふれあいを深め、男性の家事・育児への参加と乳製品を取り入れたバランスの良い食事を学んで家族の健康づくりを進めることが目的。市の管理栄養士を講師に、食生活改善推進員のサポートを受けながら、「ミートローフ」「ロールキャベツ風カレースープ仕立て」「パンケーキ」の3品に挑戦しました。

ミートローフづくりでは、ひき肉に粘り気が出るまでひたすら練り混ぜる作業に子どもたちが力尽きると、「最後はパパの出番か」と親子で協力し、楽しみながら仕上げました。

参加した保護者からは「子どもと一緒に料理を通じて、ふれあえたのでよかった」と話が聞けました。

親子のふれあい「パパとクッキング」

男女共同参画・保健センター・食育共同事業



認知症の講演を聞き入る参加者たち

「認知症」をテーマに、認知症の正しい知識や現状を伝える「医療現場とともに考える市民フォーラム」（真壁医師会主催）が2月15日、千代川公民館ホールで開催され、市内外から153人が参加しました。

講演では、「現代人に必要な認知症の知識」と題して、古河赤十字病院脳神経外科部長で認知症疾患医療センター長の山田武先生がスライドを使って、認知症の早期発見や治療につながる「物忘れ外来」などを分かりやすく説明し、会場からの質問にも丁寧に回答していました。

市内60代女性からは「母自身が認知症を心配していて、どんな症状が認知症なのか、どこに相談すればいいのか分からず不安でした。『物忘れ外来』を知り、受診してみようと思った。もやもやとした疑問がすっきりして良かった」と話が聞けました。

認知症への理解を深める

医療現場とともに考える市民フォーラム



ピアスパークしもつまで2月13日、茨城県が運営するインターネットテレビ「いばキラTV」のテーマ曲「はじまりのひかり」のプロモーションビデオ撮影が行われました。

撮影は、「いばキラTV」の開局2周年を記念して、茨城県出身のシンガーソングライター鈴華ゆう子さんが制作したテーマ曲に合わせて、県内全44市町村を舞台に県民が振り付けを踊るもの。下妻市のパート撮影には、下妻発ご当地アイドル「しもんChu」や商工・農業関係者、市民団体、市職員など10～70代の市民22人が参加し、息の合ったダンスを披露しました。

市内神明で農業を営む小田部真理子さんは「練習では少し不安でしたが、本番は楽しく踊れて良かった。ママ友に自慢したい。多くの皆さんに観てもらえるよう伝えていきたい」とダンスを終えて安堵の笑顔で話してくれました。



完成した動画は2月28日からインターネット上で公開され、「いばキラ はじまりのひかり」で検索し、誰でも視聴することができます。

下妻市民がいばキラTVテーマ曲でダンス披露

いばキラTVテーマ曲「はじまりのひかり」プロモーションビデオ撮影



強風の中でも笑顔でダンスを披露する参加者たち